

WEEKLY SIGNAL

平成28年11月11日(金) 1349号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	11/14(月)	11/15(火)	11/16(水)	11/17(木)	11/18(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 24,200	△ 6,000	△ 1,000	△ 25,000	+ 2,000
資金需給	不 23,200	不 5,000	不 1,000	不 26,000	ト ン
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(30年) 源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)		国債発行(5年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,700 CP等買入 △ 500				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,900 ETF買入 + 300	国債買入 + 11,200 短国買入 + 15,000			
(日本)	黒田日銀総裁講演(名古屋) 黒田日銀総裁記者会見 GDP速報(7-9月) 日銀営業毎旬報告 (11月10日現在) 保有する国債の銘柄別 残高(日銀) 国庫短期証券の銘柄別 買入額(日銀)	黒田日銀総裁記者会見要旨	業態別日銀当座預金残高 (10月)	貸出先別貸出金(四半期調査) (9月、日銀)	
(海外)	欧 ユーロ圏鉱工業生産(9月) 欧 ドラギECB総裁が イタリ財務省主催会合に出席 (ローマ)	米 フィッシャーFRB副議長講演 米 ポストン連銀総裁講演 米 小売売上高(10月) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月、改定値)	米 PPI(10月) 米 鉱工業生産(10月) 米 NAHB住宅市場指数 (11月)	米 安倍首相が トランプ米次期大統領と会談 米 CPI(10月) 米 新規失業保険申請件数 米 イレレンFRB議長、議会証言 欧 ユーロ圏CPI(10月、改定値)	米 景気先行指標総合指数 (10月) 米 カンザスティー連銀総裁講演 欧 ドラギECB総裁講演 (フランクフルト)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初316兆円台から始まり、国債買入・国庫短期証券買入オペ等を主要因に9日に320兆円台まで増加した後、10日に発行要因等から315兆円台まで落ち込み316兆円台で越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初△0.044%から始まり、その後は低下基調を辿った。同金利は10・11日には△0.050%と、9月30日以来約1ヵ月半ぶりの低水準をつけた。

8日(米国)に即日投開票された米大統領選挙は、主要メディアの事前予想に反し共和党候補のトランプ氏が民主党候補のヒラリー氏を破り勝利した。同時実施の米議会選においても共和党が上院下院ともに過半数を維持し、ブッシュ政権以来約10年ぶりにねじれが解消された。

来週の材料としては、国内は黒田日銀総裁講演(14日)、海外ではイレレンFRB議長議会証言(17日)や安倍・トランプ会談(17日)等が挙げられる。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.300 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約5,000億円で、一部の大型案件の継続発行が見送られたため期落ち額約5,400億円(金融機関・ABC除く)をやや下回った。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れて推移した。

現先レートの中心は、-0.100%~0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は2,800億円程度となっている。

<TDB>

10日に国庫短期証券3M第645回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.2661%(前回債△0.2568%)、平均落札レートは△0.2765%(同△0.2623%)と前回債と比べて利回りは若干低下した。セカンダリーは3Mで△0.28%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.293%近辺の地合い、1Yは目立った出合は見られなかった。来週16日に1Y、17日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは、先週末に引き続き△0.11%程度の水準から始まった。10年債・TDB6Mの発行日となる10日受渡しでは△0.095%まで上昇、14日受渡しではTDB3Mの発行もあり△0.08%台まで上昇した。週末のSNは、短国・国債買入オペが合計2兆6,200億円オファーされたことに加え、積み最終日で一部資金調達を手控える動きが見られ、△0.11%~△0.10%での出合いとなり越週した。

SC取引では、5年129回債が週末にタイ化し、ON物で△0.50%アンダーの出合いも見られた。その他2年367・368・369回債、5年124・127・128・129回債、10年323・325・328・329・332・338・340・341・342・343・344回債、20年156・158回債、30年52回債、40年9回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。